

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	62110001	
事務事業名	音楽のまちづくり推進事業	
予算書の事業名	2.音楽のまちづくり推進事業	
事業期間	開始年度	平成14年度
	終了年度	当面継続
	業務分類	4. 負担金・補助金
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input checked="" type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	高山 茂樹	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	621001
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	2 豊かな心を育む文化とスポーツの振興	
施策名	1. 文化の振興	
区分	なし	
基本事業名	芸術文化活動の推進	

予算科目	コード3	001100506
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	6. 学びの森天神山交流館費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 魚津市を「音楽を愛する街」とするため、「おんがく広場@SENZOKU魚津」への事業委託により、各種音楽事業を実施し、市民が音楽に気軽に親しめる環境を作り、当市の音楽文化の振興を図る。		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 市民 県民 小中学生・保育園児	① 市民 ----- ② ----- ③	人	45,176	44,812	44,966	44,728	44,490
手段	<平成23年度の主な活動内容> 音楽コーディネーター設置・事業実施(保育園・小学校への出前コンサート、小中学校への指導者派遣、市内施設への出前コンサート)を委託した。 *平成24年度の変更点 音楽コーディネーターの行う事業の内、小中学生を対象とした音楽指導に重点を置く内容とした。 学びの森音楽祭市制施行60周年記念コンサート及びと山室内楽フェスティバルを補助する。	① 事業数 ----- ② ----- ③	件	19	25	38	40	40
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 市民に対し、身近に音楽を親しめる環境を作り出すことで、活気と潤いをもたらすことができる。 小中学生に対し、専門家による直接指導により、音楽に対する関心を高めるとともに、演奏技術がアップさせることができる。	① 音楽事業参加者数 ----- ② 市民意識満足度調査：芸術文化に触れる機会が多いと思う市民割合 ----- ③	人 %	2,300 22.6	1,333 35.4	2,000 36.0	2,200 37.0	2,400 38.0
その結果	<施策の目指すがた> さまざまな芸術文化にふれる機会が多く、市民が活気と潤いに満ちています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成14年から、洗足学園魚津短期大学閉校をきっかけとし、引き続き魚津市で音楽文化の振興を図るべく、開始。		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
		①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等)	(千円)	176	0	0	0	0
		④一般財源	(千円)	3,310	2,330	4,737	2,830	2,830
		A. 予算(決算)額(①～④の合計)	(千円)	3,486	2,330	4,737	2,830	2,830
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 開始当初は、施設でのアウトリーチと学びの森交流館を会場とするクラシック講座を開いていた。クラシック講座は、限られた方しか利用されず、また新川文化ホールでの企画もあることから、平成22年度をもってクラシック講座を終了した。平成23年度からは、小中学生の指導に重点を置く方向に移行している。 平成24年度から富山県文化振興財団が公益法人になり、アウトリーチが行われる予定になった。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	1	1	1
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	700	440	500	500	500
		B. 人件費	(千円)	2,944	1,850	2,103	2,103	2,103
		事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	6,430	4,180	6,840	4,933	4,933
		(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 事業開始当初、音楽コーディネーター設置に対する疑問(なぜ、この団体なのか?)。ミュージカルや日本舞踊等の団体から、学校へアウトリーチをしたいとの要望がある。市民から、クラシック講座を再開してほしいとの要望がある。		◆県内他市の実施状況		(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 魚津市独自の事業であるため。				
		<input type="radio"/> 把握している <input checked="" type="radio"/> 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 大人から子供までの市民に対して、様々な音楽に触れる機会を提供することから、文化の振興を図ることができる。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現在の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 学校との連携を深めることで、成果の向上が見込める。 市民の要望に耳を今以上に上げることで、成果が上がると思われる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 新川学びの森天神山交流館運営事業で指定管理者に委託している「学びの森音楽祭」や新川文化ホール事業と連携することで、より効果が上がる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 地元の音楽家の協力をえることで、事業費の削減が見込める。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 1名で対応しているので、人件費削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 保育園・小中学校を対象とする事業や公共施設での演奏であり、基本的に指導料や入場料を取っていない。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 本事業を小中学生の音楽指導や公共施設での出前コンサートとしたので、受益者負担は発生しない。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	削減
	中・長期的 (3~5年間)	向上
事業委託については、内容を精査し、小中学校の音楽指導に重点を置く。 市制施行60周年コンサートについては、できるだけ多くの市民が参加できる工夫を行う。 新川文化ホール、新川学びの森天神山交流館、学びの森音楽祭実行委員会とは、今以上の連携を試みる。		コストの方向性
これまで、音楽事業をすべて委託していたので、市の裁量の部分が少なくなっている。今後、委託の内容を見直し、従来とは異なる音楽の方も出演できるように見直す方向に進める。また、地元商店等でも音楽が聴ける環境づくりを進める。		成果の方向性

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
著名な音楽家が、これだけの予算でコンサートなどが実施できるのは、音楽コーディネーターの力によることが大きい。また、小学校から音楽に親しむ機会を作ることで、情操教育にも効果が上がってきている。今後は一般市民のニーズを把握し活動の周知に取り組む必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	62110002	
事務事業名	新川文化ホール管理事業	
予算書の事業名	1.新川文化ホール管理費	
事業期間	開始年度	平成6年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
実施方法	1. 施設管理	
	● 1. 指定管理者代行	○ 2. アウトソーシング
	○ 3. 負担金・補助金	○ 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	川上 美子	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	621001
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	2 豊かな心を育む文化とスポーツの振興	
施策名	1. 文化の振興	
区分	なし	
基本事業名	芸術文化活動の推進	

予算科目	コード3	001100507
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	7. 新川文化ホール費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 富山県文化振興財団を指定管理者とし、施設利用者が快適かつ安全に使用できるよう管理運営を委託。また、多彩な事業の実施を促し鑑賞と参加の機会を広く市民に提供する。		単位	実績		計画・目標				
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 新川文化ホールの利用者、市民、各種団体等	対象指標	① 市民	人	45,176	44,812	44,966	44,728	44,490
			② 文化教室	件	27	29	29	29	29
			③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> 新川文化ホールの市所有部分・共有部分の施設維持管理と料金徴収業務等や事業運営を文化振興財団へ指定管理委託。 *平成24年度の変更点 変更なし	活動指標	① 利用件数	件	1,515	1,312	1,500	1,500	1,500
			② 利用料金	円	14,874,147	13,381,876	14,900,000	14,900,000	14,900,000
			③ 文化事業入場者数	人	52,766	44,531	50,000	50,000	50,000
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 施設利用者(市民・文化団体・アーティスト等)が快適かつ安全に利用できる施設を実現・維持する。 施設を利用することにより文化活動が充実する。文化の情報と交流の場を市民に提供し、市民文化の創造及び振興を図る。	成果指標	① 展示ホール利用率	%	68	66	68	68	68
			② 和室・会議室利用率	%	32	28	32	32	32
			③ 文化祭、市美展の施設利用者数(入場者数)	人	6,537	7,016	7000	7000	7000
その結果	<施策の目指すがた> さまざまな芸術文化にふれる機会が多く、市民が活気と潤いに満ちています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 利用者アンケートなど							
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成6年県東部地区唯一の県民会館、富山県新川文化ホールが設置され、魚津市の施設も併設したことによる。		財源内訳	①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
			②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
			③その他(使用料・手数料等)	(千円)	171	0	0	0	0
			④一般財源	(千円)	81,221	86,785	84,679	85,000	85,000
			A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	81,392	86,785	84,679	85,000	85,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 平成18年度から指定管理者制度に移行し、企画事業に市民文化祭、市美術展覧会事業が追加された。指定期間が21年4月から26年3月までの5ヵ年になった。開館から18年が経過し、大規模修繕の発生が懸念される。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	1	1	1	1	1	
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	300	200	200	200	200	
		B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	1,262	841	841	841	841	
		事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	82,654	87,626	85,520	85,841	85,841	
		(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) なし		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 高岡市が、美術館・博物館・市民会館等を高岡市民文化振興事業団へ管理委託。富山県文化振興財団は富山県民会館、富山県教育文化会館、高岡文化ホール、富山県民小劇場を管理している。						
		● 把握している							
		○ 把握していない							

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 適正な施設管理と多彩な事業により、市民が身近に芸術文化に触れる機会が増える。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 補助事業を利用し、市民のニーズを把握しながら事業を開催することにより満足度を高める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 適正な施設管理と多彩な事業開催には削減の余地はないものと考えている。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 鑑賞機会の創出、文化芸術の普及啓発・育成のためには指定管理者が行う事業を支援する必要がある、人件費削減の余地は少ない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 他の類似施設とほぼ同等の使用料を設定している。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 県内類似施設とは、ほぼ同等の利用料金となっている。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上
市民ニーズのあるアーティストコンサートを開催し、安定した入場者数を確保する。管理業務においては、日常のメンテを確実に実施し計画的修繕を行う。		
文化芸術の流れを察知しながら、新しい視点での企画事業の取り組みを図り、文化資質の向上に努める。新川地区の文化活動拠点施設として、魅力ある多彩な参加型事業の展開や地域の文化団体との連携に努め、利用率の向上を図る。		

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
平成23年度は人気があるコンサートや展示事業が開催され市民に好評であった。今後も引き続き、市民が多様な芸術文化に触れるための施設であり、市民に親しまれる施設となるよう指定管理者と協議していく。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	62110003	
事務事業名	新川文化ホール鑑賞事業	
予算書の事業名	2.新川文化ホール鑑賞事業	
事業期間	開始年度	平成18年度
	終了年度	
	当継続	
	業務分類	4. 負担金・補助金
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input checked="" type="radio"/> 2. アウトソーシング <input checked="" type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	川上 美子	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	621001
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	2 豊かな心を育む文化とスポーツの振興	
施策名	1. 文化の振興	
区分	なし	
基本事業名	芸術文化活動の推進	

予算科目	コード3	001100507
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	7. 新川文化ホール費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 児童・生徒に優れた音楽、舞台芸術等の鑑賞機会を提供し、芸術文化により親しみと関心を深めてもらう。		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①市内中学生 ②市内小学校13校の5・6年生	① 市内の中学生	人	1,187	1,171	1,166	1,166	1,166
		② 市内の小学5・6年生	人	795	828	814	814	814
		③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> 近代美術館所蔵作品展や舞台芸術鑑賞会の送迎にかかるバス借り上げ 文化庁補助事業「東京演劇アンサンブル」、ソプラニスタ岡本知高コンサートの開催 美術鑑賞用リーフレット作成 *平成24年度の変更点 中学生芸術鑑賞事業を文化庁の補助事業「東京演劇アンサンブル公演」で対応。	① 美術鑑賞会参加数 (中学生)	人	1,187	1,171	1,166	1,166	1,166
		② 舞台芸術鑑賞会参加数 (小学5・6年生ほか)	人	852	863	814	814	814
		③ 舞台芸術鑑賞会参加数 (中学2年生ほか)	人	394	775	374	374	374
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 芸術文化に対する興味が高まる。豊かな心や感性・創造性が育まれる。	① 小、中学生の関心度(参加児童へのアンケートによる)	%	100	100	100	100	100
		②						
		③						
その結果	さまざまな芸術文化にふれる機会が多く、市民が活気と潤いに満ちています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか 平成18年度から 新川文化ホール指定管理者制度により、新川文化ホール自主企画事業が廃止された。		財源内訳	①国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	
			②地方債 (千円)	0	0	0	0	
			③その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0	
			④一般財源 (千円)	563	682	2,979	682	
			A. 予算(決算)額(①～④の合計) (千円)	563	682	2,979	682	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)		①事務事業に携わる正規職員数 (人)		1	1	1	1	
児童数の減少		②事務事業の年間所要時間 (時間)		100	200	200	100	
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)		421	841	841	421	
		事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)		984	1,523	3,820	1,103	
		(参考) 人件費単価 (円/時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) なし		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		● 把握している	新川文化ホールのような大規模なホールがあり、送迎のバスも用意している市町村は他にない。					
		○ 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 子どもたちの育成にも芸術文化に触れることは重要である。この事業により文化ホールを身近に感じ、文化芸術の裾野の拡大を図る。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 補助事業の活用によりレベルの高い事業を開催し、満足度と芸術文化への関心を高める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 事業実施のためには、送迎バス賃借料、鑑賞リーフレット印刷費は削減できない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 補助事業を利用する場合は、書類作成や事務連絡等これまで以上に時間が必要となる。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
あり	説明 公演料、バス使用料の受益者負担はないが鑑賞リーフレット印刷費については、一部負担あり。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 類似事業がある富山市大沢野町、高岡市と比べて妥当である。大沢野町はスクールバスを併用している。リーフレットを作成しているのは魚津市のみである。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	補助事業を利用し、事業内容の充実を図る。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	設備の整った施設で、優れた芸術文化に触れる機会を増やす。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)	
新川文化ホールで直接一流の芸術文化に触れる機会を持つことは、子どもたちの情操の育成につながる。	二次評価の要否 不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)
------------------